

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：朱太川における治水と生物多様性が両立する川づくりを目指した取り組みについて		
水系/河川名：朱太川水系朱太川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：361.7km <sup>2</sup>	整備計画流量：810m <sup>3</sup> /s(W=1/30)	セグメント：2-1
事業：河川改修	事業開始年度	平成24年度
目標設定：定量的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)		
配慮事項(主な)：施工管理、委員会、協議会等の開催		

### 背景・課題、目標設定

#### <背景>

- ・過去の改修に起因した氾濫原湿地の大幅な縮小等によって、魚類の種数、個体数は著しく減少している。
- ・近年も浸水被害があり、環境面も踏まえた対策の実施が急務となっている。
- ・朱太川流域の大部分を占める黒松内町で生物多様性地域戦略が策定されたことを契機として、川づくりのあり方を見直すこととし、「朱太川川づくり検討委員会」を設立。
- ・治水と生物多様性が両立する川づくりを目指し、全国的な知見をもつ有識者や地元自治体関係者を交えて活発な議論が交わされ、検討委員会より川づくりに関する提言書を受けている。

#### <目標>

- ・川の営力によって多様な環境が創出され、朱太川に依存する生物がこれまでのように生息・育成・繁殖できる生物多様性と、治水が両立する川づくりを目指す。

### 取り組み内容・対策例

- ・試験施工区間を設け環境の変化をモニタリング・検証することとした。
- ・各分野の有識者や自治体関係者を交えた川づくりに関する委員会を開催。



### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

#### <モニタリング結果>

- ・掘削範囲に新たに砂州が形成され、河道が良好に変化してきている。
- ・全体的に平瀬化し、水深が浅くなってきている。掃流力が低下し、シルトの堆積が確認されている。

#### <今後の対応策>

- ・環境モニタリング懇談会を活用し、適宜懇談会を開催し、環境変化の傾向を適正に判断できるよう努める。
- ・環境が劣化した場合の対応として、具体的な対処方法の検討を懇談会にて行い、関係機関との連携をとり合いながら対処していきたい。

### 備考

問い合わせ先 北海道後志総合振興局 小樽建設管理部 蘭越出張所 黒松内事業所  
電話番号 0136-72-3072